

7月 23日

わだおかつ子

号外

重点目標「一步ふみだす子」よりよく考え、主体的に行動する

「夏休みを迎える会」でみなさんに伝えたいこと

いつもおうちの人や、ちいきのみなさんにおきて、おずかしいことばで学校だよりを書いているので、今日はみなさんにおきてやさしいことばでメッセージを書きます。

4月7日の入学式・始業式から今日までの間、みなさんが元気いっぱい学校生活をおくることができたことをとてもうれしく思っています。その中で校長先生はみなさんひとりひとりの「ひまわり」をいっぱい見つけることができました。お友だちにやさしくするすがた。登下校中、ちいきの方に大きな声であいさつするすがた。めあてにおかってべんきょうやうんどうをがんばるすがた。かかしのしごとをやりとげるすがたなどどれもこれも、そしてどの子のすがたもとてもステキでした。

さて、すばらしいできごとがたくさんあった第2ステージでしたが、その中でも、校長先生が和田岡小の子どもたちにとってとてもよかったなと思うできごとについてお話します。それは6月から和田岡小に、3人の体験入学生が来たことです。ひとり影山鉄人さん、5年1組でお世話になりました。彼はアメリカのテネシー州の学校にかよっています。アメリカと日本のちがいを聞くと、アメリカは日本よりも「ちあん」がわるく、子どもはひとりで外を歩けないので、学校へはバスで通うのだと教えてくれました。だから和田岡小に来て、ほうかご、友だちと外で遊ぶのはとても楽しかったそうです。

そして、4年1組と、1年1組でお世話になった堤凱里さん、裕里さん兄弟。二人は台湾からやってきました。弟の裕里さんに「日本の学校楽しかった？」とたずねると「楽しかった。とくに図工。」と、教えてくれました。兄の凱里さんによると、台湾にも図工はあるのだけれど、えがいた作品をとてもきびしくさい点されるので、台湾のほとんどの子どもが図工はきれいなのだそうです。それに台湾はすごく「がくれき」が重視される社会で、テストでいい点数をとるためにほうかごはぜんいんじゅくにいくため、ともだちとは遊べないのだそうです。それにくらべて日本の学校はとても自由で楽しいと感じたそうです。おうちに帰ったあと、友だちと遊んだのは、とてもいい思い出と教えてくれました。校長先生は、3人とも和田岡小がとても楽しかったと言ってくれたことが本当にうれしかったです。

かげやま す つつみきようだい す たいわん くに
影山さんの住むアメリカにも、堤兄弟が住む台湾にもその国どこの
生活のしかたや考え方があって、それを「文化」とよびます。この夏、み
なさんはちがう文化をもつ国から来た3人をしぜんにおかえ、あたたかく
受け入れてくれました。そして、なかのよいお友だちになってくれました
ね。それはじつはかんたんなことではありません。人は自分とちがうものを
なかなか受け入れられないものだからです。でも和田岡小の子どもた
ちはちがいました。いつか私たちは「たようせい」について考える「ひま
わり集会」を行いましたね。ひまわり集会では、人にはそれぞれ個性が
あり、とくいなこと、にがてなこともちがうけれど、そのちがいをみとめ合
っていくことが大切だとべんきょうしました。きっとみなさんはそのことをおぼ
えていてくれたのだと思います。さすが校長先生のじまんの子どもたち
です。ありがとう。3人にやさしくしてくれて、本当にありがとう。

さあ、夏休みです。そんな和田岡小のよい子のみなさんとおしばらくお
わかれです。夏休みにはぜひ自分のきょうみのあること、大好きなことを
見つけ、それに夢中でとりくんでほしいと思います。校長先生もまた和
田岡小の子どもたちがもっともっと幸せになるためにどんな教育をして
いくべきか、先生方といっしょに探究していく夏にしたいと思っています。
夏休みが明け、次に登校するのは8月27日です。この日にみんな元
気いっぱい顔をそろえましょう。楽しい夏休みにしてください。

こうちよう うめ は しんすけ
校長 梅葉 紳介

ひまわり賞

和田岡小全校児童のみなさん

4月からの学校生活の中で、毎日たくさんの

「ひまわり」を咲かせることができました。

みなさんのやさしい姿、がんばる姿は本当に

ステキで、いつも校長先生の自慢でした。

令和6年7月23日 校長 梅葉 紳介

